

2023 年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率 (同一科目複数クラスは 1 科目で算定)

| | 対象科目数 | 実施科目数 | 実施率 (22 秋セメ実施率) |
|---------------|-------|-------|-----------------|
| 共通科目 | 18 | 18 | 100% (100%) |
| 看護学部 | 15 | 15 | 100% (100%) |
| 社会福祉学部・国際教育学部 | 53 | 53 | 100% (100%) |
| リハビリテーション学部 | 41 | 41 | 100% (100%) |
| 計 | 127 | 127 | 100% (100%) |

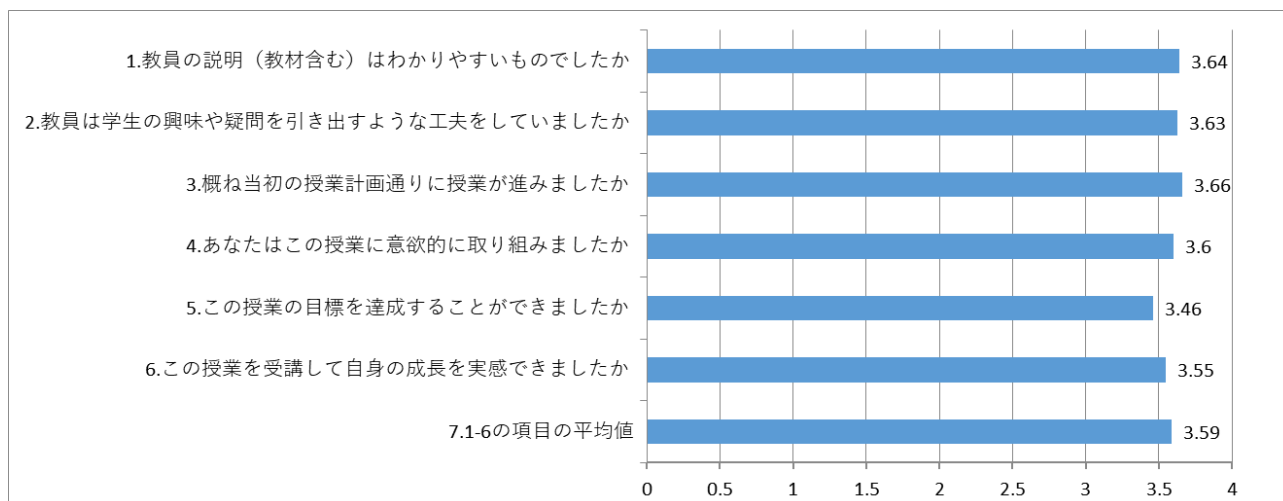
実施結果について

授業評価の実施率はこれまでと変わらず 100%を維持していますが、かねてからの課題であった学生・教員の負担と、科目間の回答率のばらつきを改善するために、授業評価の運用方法の抜本的検討を重ねました。また、アクティブラーニングや双方向授業にふさわしい設問の検討をおこない、学生 FD スタッフにも意見を伺いながら、2023 年 5 月より新方式にて授業評価を実施しました。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」(4 点)～「そう思わない」(1 点)と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した(図 1～図 5)

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値



全学 FD 委員長からのコメント

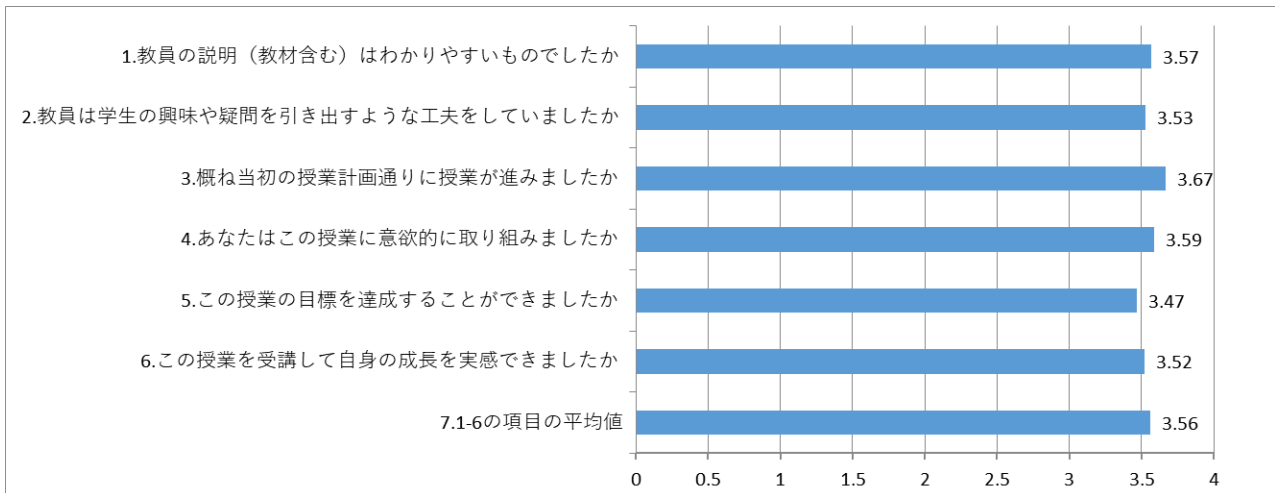
秋セメ授業評価平均比較

| 問 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|---|--------|--------|--------|--------|
| 1 | 3.65 | 3.61 | 3.62 | 3.64 |
| 2 | 3.76 | 3.71 | 3.73 | 3.63 |
| 3 | | | | 3.66 |
| 4 | 3.46 | 3.54 | 3.54 | 3.60 |
| 5 | 3.39 | 3.42 | 3.45 | 3.46 |
| 6 | 3.59 | 3.62 | 3.63 | 3.55 |

より良い授業改善のため、それまで科目によってばらつきが大きかった授業評価の回答率を全体的に上げるための方法の抜本的改革及び、各評価項目についても見直しを行い 2023 年度より新方式で授業評価を実施しました。特に、学生 FD スタッフの意見も伺った上で、項目 6「この授業を受講して自身の成長を実感できましたか」を新しく追加しました。この新項目を含め今後の推移を見る必要がありますが、項目 6 は各学部とも概ね 3.5 以上、教養・共通科目

については 3.6 以上となっています。学生・教員が誠実に授業に取り組んだことによる安定した結果だと思えます。「教員の授業姿勢」「授業態度・意欲」「受講満足度については」概ね 3.6 以上の評価となっています。一方、項目 5「目標達成度」については、どの学部、学科、教養・共通科目においても、少し低めの値となっています。回答率が上がることで、授業改善に資する情報が得られやすくなりますが、全体で授業改善を行うためには、その内容をどのように分析し、教授方法や授業環境などの仕組みにどう反映させてゆくかの試行錯誤が必要だと思えます。回答率については 2022 年度が 60%代だったものが 2023 年度は 80%と大きく改善しました。2024/2/2 に行った全学学生 FD スタッフ会議においては、ティ칭ングポートフォリオの有効活用に関する意見や、授業評価を回答しやすくするための具体的なアイデアについて、学生 FD スタッフの皆さんから貴重な意見をいただきました。感謝いたします。学生と教員が協力して、共により良い授業や FD 活動に取り組んでゆきたいと思えます。

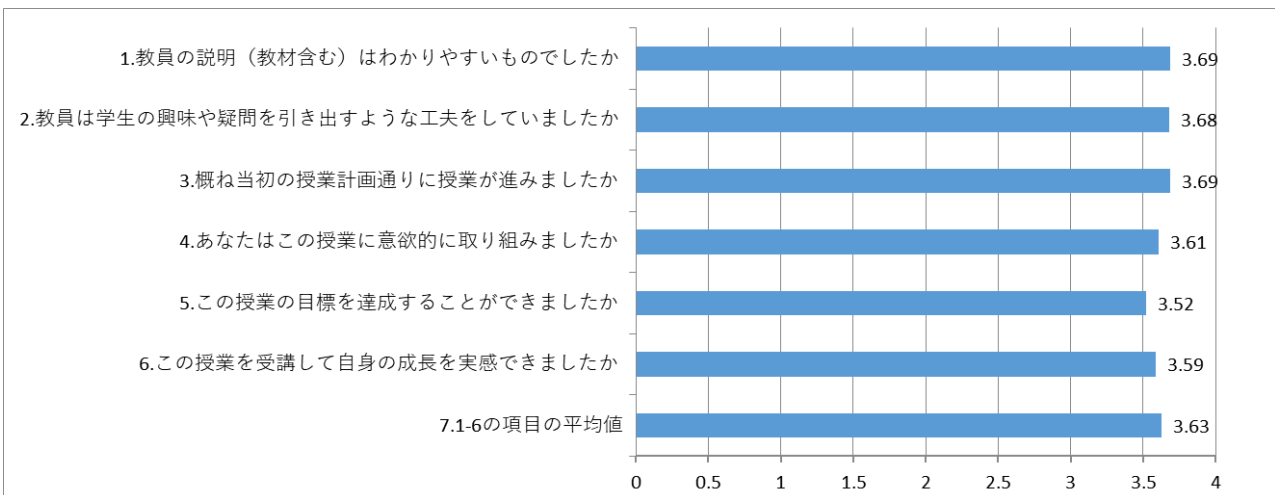
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

今年度からは、授業評価項目が見直され、さらに毎年ではなく各科目を2年に1度で評価するシステムに変更になりました。新たな評価項目1,2は教員が行う授業に関するものであり、ともに3.5点を超え良好な評価でした。授業を受ける皆さん自身については、項目4：意欲的に授業に取り組んだか、について3.59点、項目5：授業目標を達成できたか、について3.47点、項目6：自身の成長を時間できたか、について3.52点で、全6項目平均は3.56点でした。全体として見ると概ね良好なこの結果は、コロナでの制限が緩和されて2教室授業が減少し、学生と教員が相互作用しつつ、ともによりよい授業を作っていたためではないかと思われます。2023年度の授業評価は、今後の基準となるものと位置づけ、アクティブラーニングを推進しつつ、よりよい授業へとつなげる工夫を続けたいと考えます。

図3 社会福祉学部・国際教育学部における質問項目ごとの平均評定

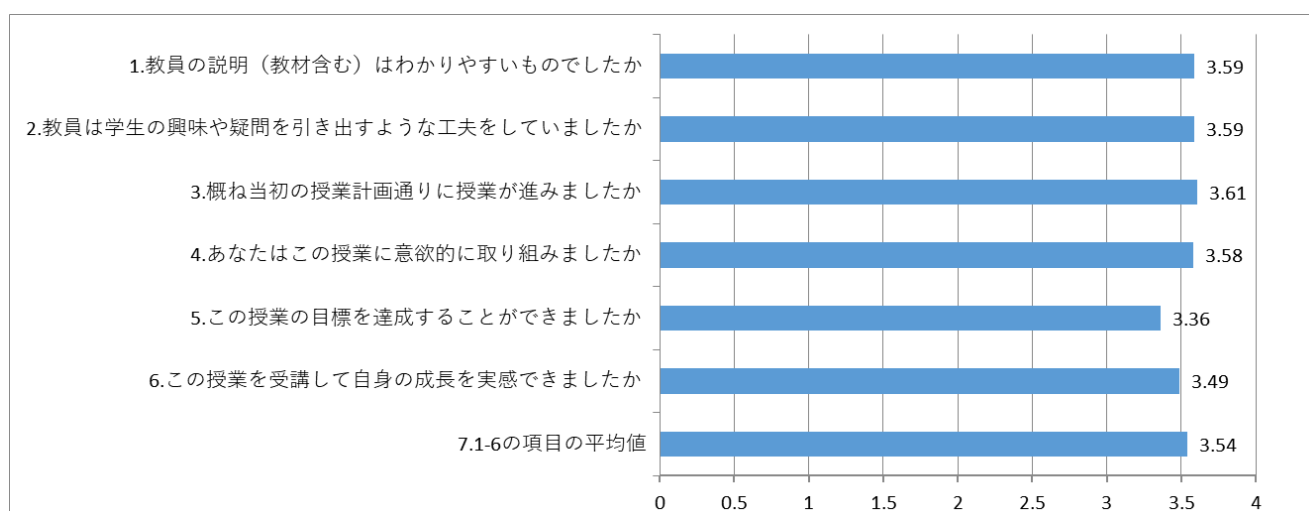


社会福祉学部・国際教育学部 FD 委員会のコメント

全体的によりよい評価が得られています。特に、1～3の教員に関する質問に対する評価は、どれも3.6以上で高いものとなっています。学生主体のアクティブラーニングによる授業展開が浸透し、各自の専門分野に即した授業が提供できていることで今季もよい授業評価が得られたと思われます。

しかし、4～6の学生のみなさん自身の学修に対する評価は3.5～3.6となっています。教員に対する評価より0.1ほど低い値になっています。学生一人一人の学修満足度を上げるためにも、学修の成果と自分自身の成長を実感できるような支援や指導をより一層意識して取り組む必要があります。学部のFD研修などでその点について話し合い、来年度からの授業や学生指導に活かしていこうと思います。

図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値

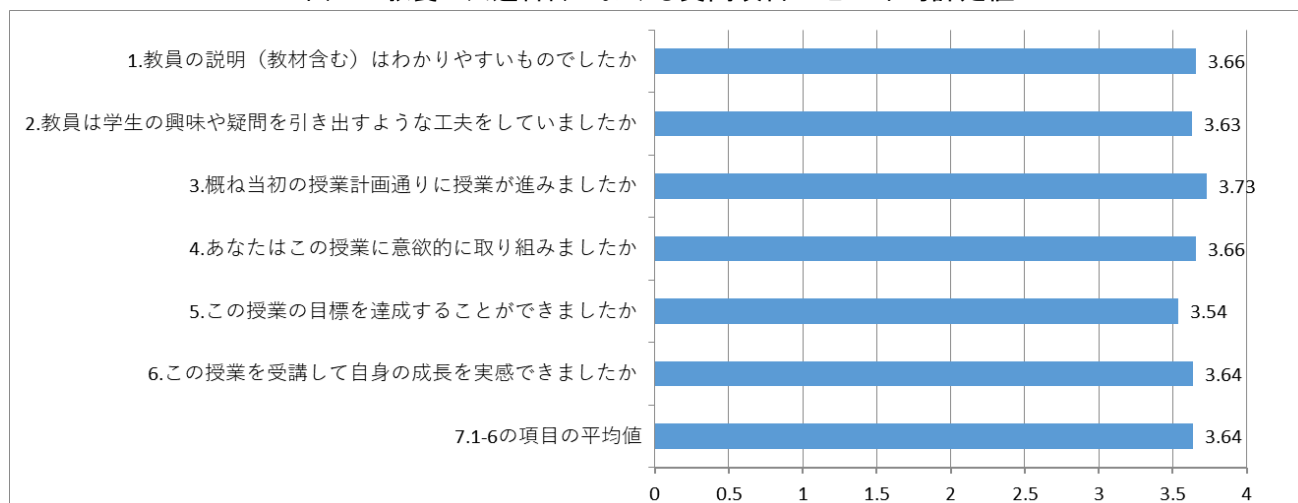


リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

新しい授業評価方法となり、回答率が昨年度を上回る科目が多くなりました。一方で、平均評定値は今年度春semester、および昨年度秋semesterと比較し、全体的に微減する結果となりました。

今回授業評価を実施した科目は実践・演習が多く、全体的な評価は3以上と高い傾向にあることから、学生の皆さんが授業に真摯に取り組まれた結果として、目標達成までの課題を認識されたのではないかと思います。今後は皆さんが目標の達成を実感できるよう、到達目標や学修成果の判定の具体化、見える化をさらに検討し、努力の積み重ねが正しく評価され、皆さんの成長を後押しできるような授業改善を図っていきたいと思います。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

すべての教養・共通科目において授業評価が実施されました。質問5の目標の達成は若干低いものの各質問項目の点数は3.5点（87.5%）以上と高く、多くの担当教員は学生の主体的な学びにつながる授業を展開していたと考えています。今後も、授業評価を振り返り、さらなる授業改善につなげていきます。